

幼児教育研修（中堅保育者）

受講者数 60名

日時 令和4年9月5日（月） 15:00～17:00

場所 足立区生涯学習センター 講堂

講師 大妻女子大学 家政学部 児童学科 専任講師 久保 健太 氏

【内 容】～保育のリーダーとして～

子どもにも、保育者にも主体性があります。子どもも保育者も気が付いたらいつの間にか心や体が動いてしまう「感じる主体性」を大切に、保育を進めていきます。それぞれの発達段階に応じた言葉かけは、禁止語を使うのではなく、一人一人の心に寄り添いながら、して欲しいことや未来を伝えていくようにします。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・主体性には、「考える主体性」と「感じる主体性」があることを学んだ。今までは、子どもの行動ばかりを重視して考えていた。そのため、乳児の主体性のある遊びとは何だろうと考えると、難しい問題だと思っていた。「感じる主体性」もあることを知り、子どもの行動ばかりを見るのではなく、表情や感じていることに寄り添い、共感しながら保育をしていきたいと思った。
- ・主体性を認めていくことの大切さを改めて感じた。若手保育者に対して、「そばにいるよ。見ているよ。大丈夫だよ。」というまなざしを送り、自信をもって保育を行う一助になればと思う。
- ・日常の何気ない場面に子どもの主体性が見え隠れしていることを意識していく。同じ場面を見ても保育者同士で理解が様々であることから、保育者間の対話の大切さを感じた。
- ・人間の育ちの中で、応答してもらえ、期待に応えていくこと、役割を果たすことで信頼を得ていくことが分った。また不安が取り除かれる中で、自分で決めたい気持ちが勝っていくのだと思った。保育の中で子どもたちとの信頼感を築いていくと共に、中堅保育者として、保育者にも主体性があり自己決定できる成熟した集団となれるよう、意見を聞いたり、発信したりしていきたいと思った。